

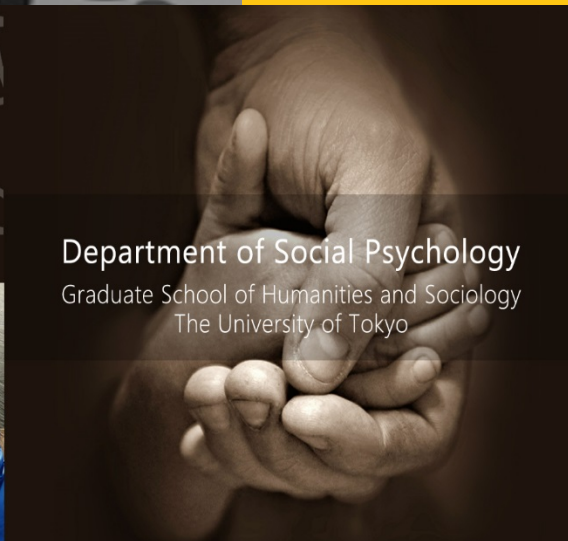
Faculty of Letters

社会心理学

PHENOM
INTER
PERSONALITY
PREJUDICE
PERSONALITY
SPOTLIGHT
PERCEPT
FEDERATES
SOC
GROUP



Department of Social Psychology
Graduate School of Humanities and Sociology
The University of Tokyo



●○●社会心理学へのお誘い●○●

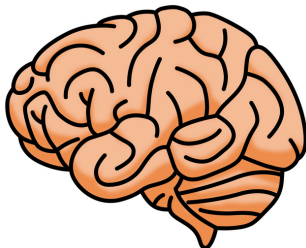
……「社会心理学」とは、どのような学問なのでしょうか？

皆さんの中には、社会心理学を「心理学の一分野」だと考えている人がいるかもしれません。心理学は「様々な行動と心の関係」を考える学問であり、社会心理学は「社会的な行動と心の関係を考える……」とするなら、たしかに、そのような考えがあてはまることになります。



しかし、社会心理学研究室的スタッフは、社会心理学を、より「広くて深い」もの……すなわち、人と社会との関係や、社会における人の性質、心の成り立ちやそのメカニズムについて総合的に考える学問であると捉えています。

このことは、社会心理学が対象とするものの広がりを見ると分かります。社会心理学が研究対象としている、主なものをリストにしてみましょう（↓）。そうすると、「社会心理学は、脳から文化まで、また多様な個人の行動や社会現象をその守備範囲としている」ということが分かるかと思います。



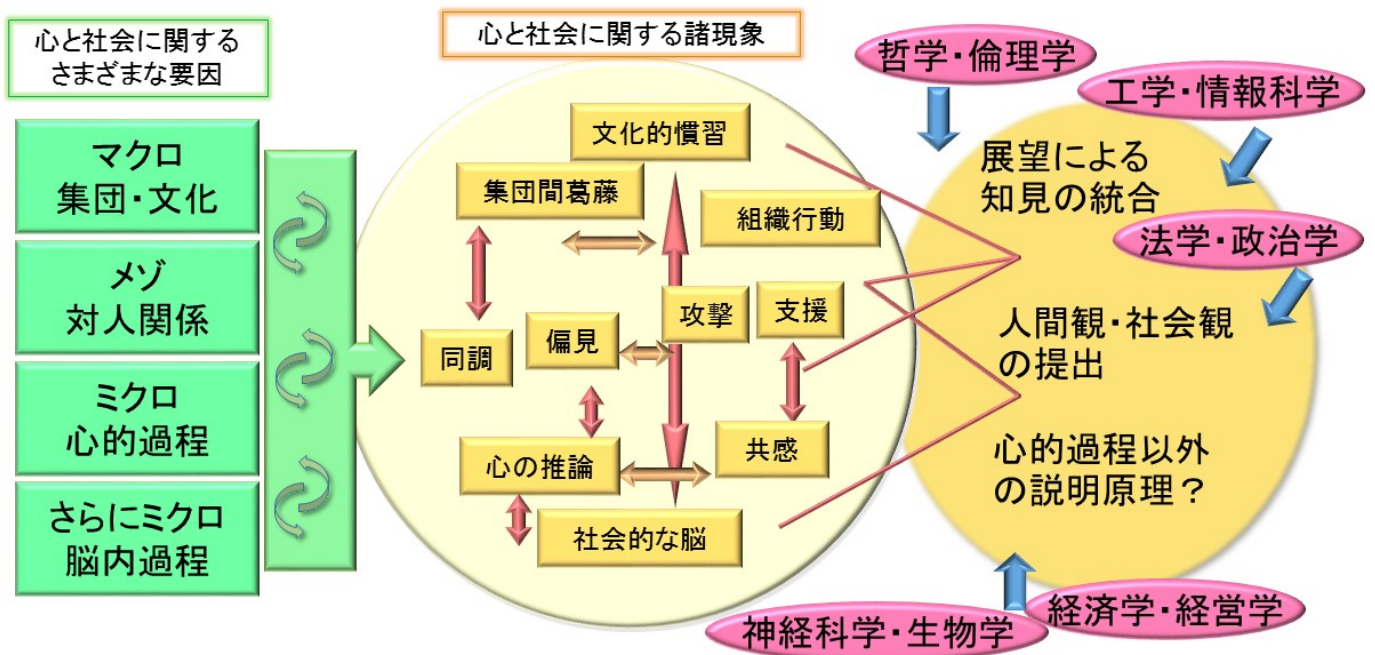
- 脳内で生起している神経科学的な過程
- さまざまな身体的・生理的反応
- 個人の感情や動機
- 推論や社会的判断
- 態度
- 援助や攻撃などの社会的行動
- 対人関係
- 集団での意思決定や問題解決
- 集団内のネットワーク
- 文化の影響や文化の形成



文学部に関心を持っている人の多くは、「人間」や「社会」などに興味をお持ちだと思います。また、中には、「社会的な行動と脳の関係について研究したい」、「人間の感情の理不尽さについて考えたい」、「偏見・格差・援助などの社会問題について議論したい」、「企業の中でのリーダーのあり方について考察したい」など、もっと具体的なアイデアを持っている人もいるかもしれません。そのような皆さん、一度、社会心理学の世界をのぞいてみませんか？ そこには、人や社会に対する様々な興味関心を吸収し、発展させることのできる、豊かな学問の世界が広がっています。あなた自身の問いを発見し、その問いを追及する楽しみを社会心理学研究室で見つけることができるよう、私たちは心から願っています。

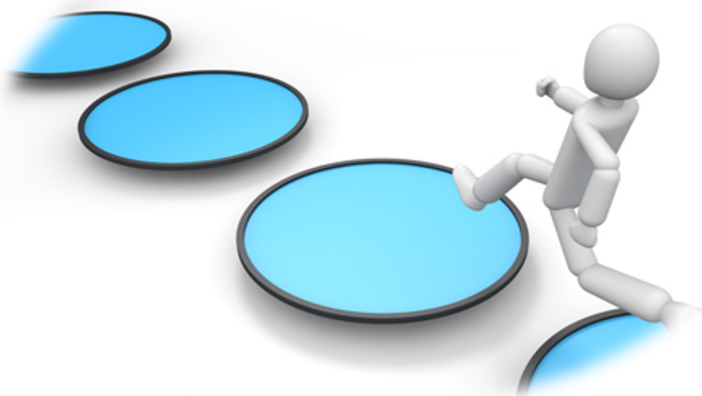
●○●社会心理学のコンセプト●○●

心と社会を議論するプラットフォームとしての社心



「心と社会がおりなすさまざまな現象について議論するためのプラットフォーム」

…私たちは、社会心理学をそのような学問としてとらえ、さまざまな研究プロジェクトに取り組んでいます。その多様性と可能性、そして新たな発見を生み出すことの楽しさを、共有しませんか？



教員紹介

文学部を代表する、個性と経験豊かな教員とともに、どのような研究生活を過ごせるのか、イメージしていただければと思います。



唐沢 かおり 教授

Kaori KARASAWA

HP: <http://www-socpsy.l.u-tokyo.ac.jp/karasawa/>



【研究テーマ・専門分野】

様々な情報から、私たちは心の中に「社会」を描き出します。自分や他者、社会的な出来事が、いったい「何者なのか」を理解し、評価します。この過程の背後には、どのような心のメカニズムがあるのでしょうか。この問いを、特に「Moral agent」（道徳的主体）としての私たちの認知特性に焦点を当てて考えています。私たちは、単に、社会的な情報を処理して理解するだけの存在ではなく、自分や他者、社会全体を、「道徳的に良いか悪いかな」という観点から評価することに志向づけられている存在です。その存在を支えている心の仕組みについて、他者の「心の推論」と対人判断や対人行動との関係や、自由意志に対する考え方が自己制御に及ぼす影響、ライセンス（自分自身に対して与える「権利や許し、言い訳」）と道徳的行動との関係を中心に検討しています。また「応用問題」として科学コミュニケーションや実験哲学的なプロジェクトにもかかわっています。

【社会心理学の魅力】

複雑な社会や自分とは異なる他者、さらには社会的存在としての自分自身について、分析的に考え、自分なりの社会観、人間観を作り上げるための道具と方法（概念や理論、思考様式）を提供してくれることです。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

自分がいまだ把握していない「知」に対する敬意と、それを吸収しようとする貪欲さ、そして、自分が得たものを、よりよい形で現実の社会やこれまでに築かれた知の体系に還元していこうとする意欲を持ってください。学問は世界をのぞき見るための「窓」でもあります。そこから見える景色は、窓によって、少しずつ違うけれども、皆さんが「本質的だ」と思える景色が見える窓が見つかりますように。

【おすすめの著書・編著書】

- ◆唐沢かおり（著）なぜ心を読みすぎるのか：みきわめと対人関係の心理学 東京大学出版会（心を斟酌し他者を評価することで繰り広げられる人間関係と、その背後にある心的過程を論じた本）
- ◆唐沢かおり・林徹（編）人文知Ⅰ 心と言葉の迷宮 東京大学出版会（東大文学部の多様な魅力を伝えるシリーズの一巻目です）

村本 由紀子 教授

Yukiko MURAMOTO

HP: <http://www.ym-lab.com/jp/>



【研究テーマ・専門分野】

さまざまな社会環境と、そこに身を置く個人の心理・行動傾向とのダイナミックな関係に関心を持ち、以下のような研究に従事しています。

(1) 関係性の視点に基づく「心の文化差」の理解…欧米人とアジア人の心理・行動傾向には多くの文化差があると言われますが、ひとりの人間が身置いているのは、アメリカ文化、日本文化などトラベルづけされるような一枚岩の文化ではありません。人は他者との多彩な関係性に幾重にも取り巻かれ、各々の関係性に応じて異なる心的過程を生起させます。欧米の研究者とも連携しつつ、そのメカニズムの解明を目指します。

(2) 集団規範や文化的慣行の生成と再生産過程…組織や集団、共同体には、明文化された規則のみならず、暗黙のルールが数多く存在し、知らず知らずのうちに成員の心理や行動を規定しています。そうした規範や慣行はいかにして作られ、維持されるのか。産学連携の企業調査や地域社会でのフィールドワークなどの「現場」に根差した研究と、実験的手法を駆使して「理論」構築を目指した研究とを両輪として、この問題にアプローチしています。

【社会心理学の魅力】

ある企業で実績を残した経営者でも、別の企業で再び手腕を発揮できるとは限りません。優勝したスポーツチームが、同じメンバーで翌年には沈むこともしばしばです。なぜ？組織や制度だけを眺めても、個々の人間だけを眺めても、その答えは見えてきません。「社会」と「心」のダイナミックな関係を探究することの醍醐味が、ここにあると思います。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

「書を持って街へ出よう」。社会心理学の問いは現実の社会生活のなかにあります。だからこそ、アタマとカラダの両方を動かすことをいとわない、元気と意欲を求めます。学問で得た知識や理論を、私たちが生きる日常の現場に結びつける視点をもつことは、卒業後に選ぶ進路がどのようなものであれ、きっとみなさんの役に立つと思います。

【おすすめの著書・編著書】

- ◆ 池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子『New Liberal Arts Selection 社会心理学』有斐閣（組織、集合行動、文化に関わる諸問題に多くの紙幅が割かれています）
- ◆ R. E. ニスベット著・村本由紀子訳『木を見る西洋人 森を見る東洋人』ダイヤモンド社（文化心理学の知見を広く学ぶために。と同時に、本書の議論をいずれ越えていくために。）

大坪 庸介 教授

Yohsuke OHTSUBO

HP: <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~yohtsubo/>



【研究テーマ・専門分野】

人間の社会行動の適応的基盤に関心を持ち、生物学のモデルを援用しながらヒトという社会的動物の行動を研究しています。

(1) シグナリング・ゲームとしての対人相互作用…対人相互作用をシグナルによる情報共有の進化という観点から考えています。しかし、正直に情報共有するより、相手を欺くために情報を隠し、偽情報を伝達する方が競争で有利にはならないのでしょうか？ ところが、動物たちの正直なシグナルの例は枚挙にいとまがありません。正直なシグナルの進化モデルをヒトの対人相互作用に適用しながら、コミュニケーションのあり方を研究しています。

(2) 評判・罰に基づく協力とそれを支える感情のはたらき…私たちヒトという種は、評判や罰を利用して大規模な協力を維持できる例外的な動物と言われています。しかし、評判や罰により協力が維持されるのは、評判であれば自尊心や恥、罰であれば義憤や罰されることへの恐れといった感情が私たちに備わっているからでしょう。ヒトの大規模な協力、そしてそれを支える感情の役割について研究しています。

【社会心理学の魅力】

社会心理学という学問分野は、私たちの行動の規定因として人側の要因（性格や態度）よりも状況要因を重視します。この考え方が根本にあるからこそ、客観的に測定した状況要因から平均的な人々の行動を予測しようとする発想が生まれます。つまり、社会心理学は文系の問題（人間行動の理解）を理系の道具（数理モデル）で解決するスキル（データサイエンス時代に必須のスキル！）を磨く場でもあるのです。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

これまでは与えられた問題を解くことが多かったと思います。これからは、自分で設定した問題を、自分で解決することになります。社会心理学の問題は裾野が広く、解決方法に絶対的な正解はありません。従来の社会心理学の方法には満足せず、もっと違う分野の方法を使ってみようと思うかもしれません。自分が設定した問題にコミットし、どんな方法を使ってもより良い解に近づこうとする知的探求への情熱をもってください。

【おすすめの著書】

- ◆大坪庸介 『進化心理学』 放送大学教育振興会（進化心理学への導入の教科書です）
- ◆大坪庸介 『仲直りの理』 ちとせプレス（和解を進化論的観点から検討しています）
- ◆大坪庸介、アダム・スミス 『英語で学ぶ社会心理学』 有斐閣（状況要因の力を中心に社会心理学の古典研究を集めた教科書になっています 共著者名は本人曰く「全くの偶然」です）

稲増 一憲 准教授

Kazunori INAMASU

HP: <https://k-inamasu.net/>



【研究テーマ・専門分野】

世論形成やそれに対するメディア・コミュニケーションの影響を中心に、現代社会に存在するマクロな社会現象について、社会の構造と個人の行動の両方からアプローチする研究を行っています。現在取り組んでいるテーマは、たとえば以下のようなものです。

（１）メディア環境の変化が人々の価値観にもたらす長期的影響

テレビ・新聞を通じて皆が同じ情報を得ていた時代から、世代ごと・個人ごとに異なるメディアに接触し、それぞれ異なる情報を得る時代へと変化したことが、人々の価値観にどのような変容をもたらすのかを検討しています。

（２）現代日本における世論の対立軸と分断

米国では当たり前のように利用されている保守（右）－リベラル（左）という対立軸（イデオロギー）ですが、政党とイデオロギーの対応関係が明確ではない日本における適用範囲は限定的であり、この軸だけに基づいて考える限り「世論の分断」を捉えることはできないと考えます。日本において、人々の意見を分ける対立軸は何なのか、それに基づく「世論の分断」は生じているのかについて検討してします。

【社会心理学の魅力】

実験や社会調査を中心とした社会心理学の研究手法や統計分析手法は、他の多くの社会科学分野と共通点を持っており、社会心理学の理論や知見は、さまざまな学問分野や実務の分野で応用されています。だからこそ、社会心理学を学ぶことは、異なる専門を持つ人とともに考え、問題を解決するための「共通言語」を獲得することに繋がります。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

今の私が、大の苦手だった数学を基盤とする統計手法を用いて、大嫌いだった政治に関連する研究をしていること。関西で10年以上暮らすこと、その後出身研究室に戻って来ること。みなさんと同じ年齢の時には、すべて想像もしなかったことです。「自分はこういう人間だ」と決めつけてしまうのは、まだまだ早いです。同級生や先輩後輩、先生、書籍や論文、学問、さまざまな出会いによって、自分自身が変化していくことを積極的に楽しんでください。

【おすすめの著書】

◆稲増一憲『マスメディアとは何か-「影響力」の正体』 中央公論新社（インターネットを含むメディア・コミュニケーションの影響力について、社会心理学の観点からまとめています）

鈴木 啓太 助教

Keita Suzuki

HP: <https://sites.google.com/view/plantogousouth/>



【研究テーマ・専門分野】

能力観が状況・環境・文化とどのように相互作用し、私たちの課題の取り組み方や他者への認知に影響を与えるのかを研究しています。教育心理学や学習心理学の領域では、「能力は可変的で努力によって成長する」という可変的な能力観を持つことの望ましさが主張されてきました。そういった研究文脈に対して、可変的な能力観が望ましくなる（もしくはネガティブに働く）状況や条件を明らかにすることを目指しています。従来の研究では「与えられた課題に取り組む個人」に着目し、困難を克服する信念として可変的な能力観の望ましさが実証されてきました。一方で、課題を自ら選択する場面や、他者と共同で課題に取り組む場面といった私たちの社会に遍在する状況においては、可変的な能力観が異なる帰結をもたらす可能性があります。こういった可能性を検討することで、従来の研究射程に社会心理学的な視点を導入でき、可変的な能力観のより包括的な理解が可能になると考え、研究を進めています。発展して、特定の能力観が獲得されるプロセスや、特定の能力観を持つ個人同士が相互作用することでもたらされるマクロ的な帰結を明らかにするために研究を進めています。

【社会心理学の魅力】

「社会」は私たちにとって馴染みの深いものですが、それを研究対象にしようとする同一気味に掴みどころのない複雑なものになります。社会心理学は同じようにこの難問に取り組む他の多くの領域と交流しながら、どう社会という対象に取り組むべきか模索している、発展途上の領域でもあります。だからこそ、ある種のうつぼのようなエネルギーと自由さ、同時に不安定さや五里霧中の感覚、様々なものを経験できる領域だと思います。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

心理学と聞くと、人生をうまく生きるコツのような知識を学べるとイメージされるかもしれませんが、心理学のコミュニティに身を置くうちに、心理学を学ぶ意義は、自身が立てた理論やモデルの限界を見定め、未知の現象や矛盾に出会った時に絶えず修正しようとする作法を身につけることだと感じるようになりました。社会がより複雑で不確実になっていく中でこういった汎用性の高い作法を身につけることは、個々のライフハックの習得を超えて、人生を豊かにする一つのアプローチだと思います。

【おすすめの著書】

- ◆ 繁耕算男編『心理学理論バトル』新曜社
心理学の様々な領域における理論の対立を網羅的に紹介。関心領域の見定め。
- ◆ 岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子著『多元的無知：不人気な規範の維持メカニズム』東京大学出版会
グループダイナミクスの中心的なテーマである多元的無知の専門書。

●○●社会心理学研究室の授業●○●

1. 概論

基本的には講義形式により、社会心理学に関する様々なテーマを学んでいきます。人間の社会的行動をどう理解すればよいのか、人間という「社会的動物」をどう分析していくかなど、卒論にも通じる科学的視点を養うことができます。※3年のSセメスターに2コマ開講されます。

2. 特殊講義

概論に比べ、やや焦点を絞ったテーマについて、その第一線の先生からの講義、あるいはディスカッションを通して理解を深めていきます。講義テーマの例（2024年度）として、産業・組織心理学などがあります。「専門社会調査士」の資格取得のために必須となる「統計学」に関する講義も開かれています。

3. 演習

社会心理学の中でも「今が旬」のトピックについて、関連する論文を皆で講読したり、担当者がその割り当て分を発表したり、それをふまえてのディスカッションやグループワークを行ったりします。概論と最も大きく異なる点は、①講義形式ではなく参加型の授業であるということ、②特定の問題について深く掘り下げた学習や議論ができるということです。大学院生のTAがいる場合もあるので、経験値が異なる人たちとのコラボレーションにより、非常にユニークなアイデアが生まれることも多々あります。

4. 実習

社会心理学専修課程では、研究の方法論を学ぶための実習科目を設けています。2年のAセメスターでは、「社会心理学実習Ⅰ（実験実習）」「社会心理学実習Ⅱ（調査実習）」が開講されます。

実験実習では、毎週、授業時間中にシンプルな実験を行い、実験内容と分析方法についての講義をふまえて、実験データを分析しレポートにまとめます。分析手法やレポート作成のルールについて、基本的なことを学べます。

調査実習では、何人かのグループに分かれて仮説を立て、それを検証するための調査票を身近な人たちに配り、そのデータを収集・分析することで、調査の具体的手法について学びます。同学年だけでなく教員やTAとも活発に意見交換しますので、研究室内の人たちとの仲が自然に深まります。

さらに、本郷進学後には、社会心理学実習の授業を受講し、研究の現場に入ることによって研究能力を身につけることができます。この授業では、特定のテーマの下、グループに分かれ、院生と一緒に実験・調査・フィールドワークなどを行います。仮説を立てるところから研究デザインの設定、実施、分析と進み、最後に発表会を行います。学部生数人に対して院生が1人つく少人数制なので、研究のやり方についてじっくり学ぶことができ、今後何かと頼りにできる院生とも仲良くなれます。

5. リサミ

「リサーチミーティング」の略称で、いわば「卒業論文について相談する時間」です。4年生になると、その間の1年間をかけて、卒業論文を執筆することになります。リサミでは、卒業論文の仮説構築・先行文献の選定・調査/実験方法の検討など、様々なことを教員やTAに相談することができます。

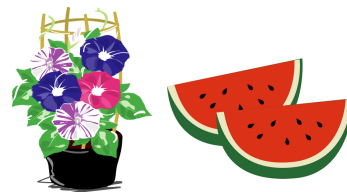


参考として、2 年次の A セメスターと 3 年次の S セメスターの週間予定表の例を挙げておきます。



2 年次・A セメスター（例）

	月	火	水	木	金
1					
2	英語後期(2)		経済学研究 1		社会心理学 統計 1 (必修)
3	社会心理学 実習 II (調査実習) (必修)	社会心理学 実習 I (実験実習) (必修)			行動適応論
4				統計 I	心理学研究法
5		心理学概論		統計 I	こころの 総合人間科学 概論



3 年次・S セメスター（例）

	月	火	水	木	金
1					
2		社会心理学 統計 2 (必修)	社会心理学 概論 2 (必修)	社会心理学 実習	社会心理学 特殊講義
3	社会心理学 演習 (選択必修)	社会心理学 概論 1 (必修)	情報メディア 論		美学芸術学 特殊講義
4		心理学 特殊講義	社会学 特殊講義		
5			心理学 特殊講義		

●○●卒業・修了について●○●

学部4年生になると、卒業論文（卒論）もしくは特別演習（特演）に取り組むことになります。毎年の先輩の様子をみると、やはり卒論の執筆を選択する人が多いようです。卒論では、自分の興味や関心に基づき仮説を立て、調査や実験を行って得たデータからそれを実証することを目指します。特演の場合は先行研究の考察が中心で、集めた論文や研究から自分の仮説を検証していくことになります。このどちらかを提出することが学部の卒業要件ですが、どちらを選んでも調査・実験・統計の授業で学んだことをフル回転させて挑む、あなた自身の「大学生活の集大成」になることは間違いありません。

大学院に進学し、修士課程（博士課程前期ともいいます）では、卒論や特演以上に内容を掘り下げた、本格的な研究をすることになります。

ちなみに、これまで各教員が指導した卒論と修論のテーマを一部挙げておきます。社会心理学の扱うテーマの多様さが感じられると思います。

卒論

- ◆共有現実の形成に見るエコーチェンバーと態度変化に関する検討
- ◆誤情報を信じないために 二重過程理論に基づく真実性の錯誤の低減
- ◆豪雨災害時における避難行動の地域差：「外部性」の認知の差異が避難意図に及ぼす影響
- ◆不公平状況回避の心理メカニズム
- ◆宗教集団における「使い捨てパニッシャー」の可能性：文化進化シミュレーションを用いた検討
- ◆現代的性差別(modern sexism)の軽減と、それによる行動意図の変容
- ◆再分配はリスク分散として機能するか
- ◆2種類の能力評価予測が少数派の意見表明意図に与える影響
- ◆国際的な政治謝罪の事例から検討する、許しを促すのに有効な謝罪の方法
- ◆不平等是正によって生じる新たな不平等の認知が被搾取者の公平感に与える影響

修論

- ◆企業の謝罪方法が信頼性の知覚に与える影響
- ◆リスク傾向が適応度に与える影響の性別による調整効果
- ◆企業の謝罪方法が信頼性の知覚に与える影響
- ◆フェイクレビュー存在下における、EC サイト・評判システムの有効性の検討
- ◆遺伝的知識が社会的排斥に与える影響
- ◆世代を超えた協力を作るには？—後続世代の存続に着目して—

過去の卒論・修論の題目は研究室ウェブサイトにもリストを掲載しています。ぜひご覧ください！

www.utokyo-socpsy.com/theses.html

●○●卒業後の進路●○●

これも大事な関心事ですよ！ これまでの社会心理学専修の卒業生の進路は、大学院の他、民間企業、情報産業、官庁など多岐にわたっています。人事、教育、調査、取材、システム・エンジニアリングなど、実習で学んだことを活かせる部門に配属されることが多いようです。近年の卒業生・修了生の就職先（一部）を以下に紹介しておきます。



アクセンチュア、伊藤忠エネクス、外務省、厚生労働省、財務省、シグマクシス、資生堂、住友重機械工業、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、NHK、ドイツ銀行、東京建物、内閣府、フォースバレーコンシェルジュ、ブリヂストン、三菱ケミカル、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング …etc.

どうでしょう？卒業後のイメージを感じていただけましたか？

もちろん、大学院に進学する学生も多いですよ！（近年では、東京大学大学院のほか、京都大学や北海道大学の大学院など）

●○●研究室の雰囲気●○●

実習系の授業や卒業論文では、教授陣・大学院生・学部生と一緒に議論していくスタイルが多いです。

卒論について、先生や院生を
交えてミーティング



演習授業で、読んだ論文の内容を報告中



卒論発表会ではポスター形式で自分が
行った研究について報告します



学生控え室で、和気藹々と、研究に関する
ディスカッション？はたまた雑談？



研究室スタッフ一同、
皆さんの進学を
お待ちしております！



Email : sphisho@L.u-tokyo.ac.jp